

ウレタン防水の下地調整

- ・レジアンダー塗布後、当日ノンプライマーでウレタン防水材が塗布できます。
- ・養生時間 表面全体が乾燥（色で確認）した状態となるまで

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
	無溶剤プライマー として使用	混和液のみ	刷毛・ロー ラー	約 0.1~0.15 粗面は状態による	吸い込みが激しい場合は追い塗りが必要です。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファ ルトとの仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	0.6~0.8	密着していないアスファルトは残さないよう撤去し、残存アスファルトを溶かす恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アスファルト類に対し優れた付着性を有します。
砂付きルーフ ィング（シルバ ートップも可）	砂付きルーフィン グ・シルバートッ プとの仲介接着	混和液：粉体= 1 : 1	刷毛 ・ローラー	0.2~0.3	シルバートップに対し接着良好です。ローラーで施工する場合は、水を添加せずに粉体を減量して下さい。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有します。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層撤去後（通気 緩衝工法）	通気マット用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層	ウレタン防水層と の仲介接着	混和液：粉体= 1 : 1	刷毛・ロー ラー	0.12~0.15	混和液のみだとはじきが起こる場合があります。粉体を入れるとはじかなくなります。ウレタン防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ポリマーセメント系防水材	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着	混和液のみ はじきがある場合、水勾配が大きい場合 混和液：粉体＝１：１	刷毛・ローラー	混和液 0.10～0.12 １：１配合 約 0.12～0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
ポリエステルFRP防水材	不飽和ポリエステルとの仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛 ・ローラー	１：１配合 約 0.12～0.15	接着力確保のため、トップのパラフィンはサンディングにより除去して下さい。不飽和ポリエステルに対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル	下地との仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛 ・ローラー	１：１配合 0.12～0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
ガラス					
鉄					
ステンレス					
アルミ	アルミとの仲介接着	混和液：粉体＝１：１	刷毛・ローラー	0.12～0.15	アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。１：１配合で、アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はありませんがご注意ください。

下地調整を兼ねた仮防水

・通常配合で塗布乾燥後、混和液を塗布し含浸させると、極めて透水性の低い塗膜が形成されます。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
各種下地	下地調整プラス仮防水	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ塗布	下塗り コテ 上塗り 刷毛・ローラー	下塗り 通常配合 0.8～1.0 上塗り 混和液約 0.1～0.15	下塗りは通常配合でコテしごきを原則とします。表面全体が乾燥したら、混和液を上塗りします。混和液が乾けば即仮防水効果が期待できます。硬質塗膜なのでひび割れの動きには追随しません。貫通ひび割れには要Uカットシール